

第6期東京都生涯学習審議会

専門部会（第6回）

議事録

平成18年5月23日（火）

午後6時05分から午後7時15分まで

都庁第二本庁舎31階 特別会議室24

出席委員

生重	幸恵	委員
太田	篤	委員
田中	雅文	委員
高橋	陽子	委員
葉養	正明	委員（部会長）
水谷	幸宏	委員
村上	徹也	委員

第6期東京都生涯学習審議会
専門部会 第6回 会議次第

1 開 会

2 議 事

(1) 専門部会のまとめについて

3 その他
今後の日程について

4 閉 会

【配布資料】

- 資料1 第6期東京都生涯学習審議会専門部会報告 構成(案)
- 参考資料1 NPO法人こども環境活動支援協会(LEAF)の取組事例～企業・NPO・学校のパートナーシップ
- 参考資料2 埼玉県教育委員会「学校と民間の協働プラン開発事業」
- 参考資料3 子どもの育成に関する「基金」について(地方公共団体がかわる取組例)
- 参考資料4 特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム(JYID)の取組～企業からの助成金審査を受託するNPO
- 参考資料5 平成18年度研修案内概要版(東京都教職員研修センター)
- 参考: 第5回専門部会配布資料
- 第6期東京都生涯学習審議会専門部会報告 構成(前回案)

平成18年5月23日(火)

第6期東京都生涯学習審議会
専門部会(第6回)

午後6時05分開会

【主任社会教育主事】 それでは、第6期東京都生涯学習審議会第6回専門部会を始めさせていただきます。

本日は、清水委員、向井委員、坂井委員から欠席の御連絡をいただいています。高橋委員は間もなくいらっしゃると思います。

では、部会長、よろしくお願いいいたします。

【葉養部会長】 今日で、全体会に提出する部会報告案の審議を終わりにしたいと思いません。

それでは、事務局から、まず資料説明をお願いします。

【主任社会教育主事】 初めに、配布資料の確認をいたします。

次第と座席表がございます。

資料1が専門部会報告(案)でございます。

参考資料1がNPO法人子ども環境活動支援協会(LEAF)の取組事例。

参考資料2が埼玉県教育委員会「学校と民間の協働プラン開発事業」。

参考資料3が子どもの育成に関する「基金」について。

参考資料4が特定非営利活動法人青少年育成支援フォーラムの取組。

参考資料5が平成18年度研修案内概要版となっております。

そして最後に、前回の第5回専門部会で配布いたしました専門部会報告の構成(前回案)を参考につけてございます。これと比較しながら、今日用意しました報告構成(案)を見ていただければと思います。

では、早速、専門部会報告(案)について、前回いろいろ御指摘いただいた部分を含めて修正しておりますので、そちらについて御説明をいたします。

初めに、前回御提示いただいた修正点についてですが、まず資料1の4(1)<取組の方向1>がございます。前は「民間」という言葉になっていましたが、あいまいでしたので、もう少し幅広い意味で「外部社会資源」と訂正しています。そして、「企業や各種業界・団体、大学、NPOなどを指す」と表記しています。

2枚目の〈取組の方向6〉の都立学校への支援方を充実するという箇所をご覧願います。右側にあります5の「都教委が緊急に対応すべき施策に関する提言」の内容と重複しているのではないかと御指摘がありましたので、この項目については5のほうへ移した形になります。

3点目は、やはり2枚目の(2)〈役割2〉の(2)に「教育支援人材の能力を最大限に引き出せるようなシステムを構築する」というところがございます。ここの文言が、前回は「教育支援人材に資格等を付与するためのしくみを検討する」ということで、
、 つきましても資格付与を前提にした、資格認証を厳密に行うという言い方をしていました。資格については論議がありましたので、 と の部分を修正しています。

もう1点は、〈役割2〉の(3)の の例ですが、前は「地域連携担当主幹の配置など」と職名を出していましたが、「校内組織に地域連携担当を配置するなど」となっています。

以上の4点が前回の御指摘を受けて修正した部分になります。

それから、部会長と検討し、新たに事務局として修正を加えた箇所がございますので、それらについて御説明いたします。

まず、資料1の1枚目の1番目のところですが、前は「社会的な背景」としていましたが、ここは専門部会の報告ですので、「審議の経過」に置きかえて報告という形をとることにしています。

2つ目は文言調整ですが、2の教育行政の課題の矢印の右に、四角で囲んであります「学校教育を中心としつつも、それを取り巻くサブシステムとしての教育支援のしくみの確立の必要性」の「教育支援のしくみ」が、前は「教育支援システム」となっていました。「教育支援のしくみ」と訂正して、下の「地域教育プラットフォーム構想」につながるようにしています。

3つ目として、3の「都教育委員会がこれまで取り組んできた施策の到達点と課題抽出」ですが、以前、ここは「都教育委員会が取り組む施策の現状と課題」となっていました。が、「施策の到達点と課題抽出」にしまして、到達点と課題を明確に分けた構成にしています。

細かいところですが、課題の の2行目に「地域教育プラットフォームのしくみを導入している区市町村の学校では」となっています。以前、ここは「地域教育プラットフォームのしくみを導入している地区の学校では」になっていましたが、ほかの区市町村に広がっていくという役割がありますので、ここは「区市町村」に文言を改めています。

右側の「4、子どもたちにとってよりよい教育環境を整備するための都における地域教育推進体制整備のあり方」の下に囲みがあります。線がありますが、4行目の事業スキームの前に「運営」を入れています。

報告構成(前回案)には「その際に公教育の質の向上を担保するために」の前に「注意しなければならないことは」というのがありましたが、そうした言い方は報告の中では不要だろうということで外しています。

それから、<取組の方向3>の(1)の ですが、「教育コーディネーターのあり方についてのガイドラインを示すなどの調査研究に取り組む」を新たに入れていきます。現在、申請を検討中ですが、文部科学省の委託事業でこの調査研究をしていくことも視野に入れて追加しています。

続いて、次のページを御覧ください。真ん中の(2)東京都教育委員会に期待される役割の<役割2>の(1)の に、例として「教員のジョブローテーションの一環に組み込む」という言い方があります。この後にあった「あくまで本人の希望制とし、3年間程度従事させる」という具体的な表現を削除し、「教員のジョブローテーションの一環に組み込む」という表現にとどめています。

それから、<役割3>の(1)多様な資金調達の手法を開拓すること等財政的支援の方策を検討するとありますが、前は「民間の発想を効果的に活かすことができる財政的支援の方策を検討する」となっていましたので、「民間」の語を取り、少し簡単に「多様な資金調達」という言い方にしています。の部分で「協議会」の部分に下線があります。ここは前回「民間(又は協議会)」となっていました。ネットワーク東京都協議会を明確にするために「協議会」という表現だけにしています。

<役割4>の(1)に都民、教育関係者に対しアカウンタビリティを発揮できる仕組みをつくるという表記を加えました。今後の行政に必要なことですので、協議会にも適用するために新たに加えています。

最後に、5の(2)の 「地域へ貢献する都立学校」を目指すための学校経営支援ですが、学校経営支援のイメージが描きにくかったので、例として「都立学校施設開放事業の充実など」を追加いたしました。

修正の部分と追加については以上です。よろしくお願ひします。

【葉養部会長】 どうもありがとうございました。

事務局から説明がありましたように、この専門部会報告は第6期東京都生涯学習審議会

の中間建議における提案の柱として取りまとめたいと考えてございます。全体会に諮るための原案づくりでございます。

全体会は6月5日に開催される予定でございますけれども、そこで本日御審議いただいた専門部会報告を行いまして、全体での審議を経て、その後、今度は大橋会長も含めまして起草委員会を設置し、中間建議づくりに取り組むという予定で考えております。その後、起草委員会で文章化したものを全体会にお諮りして御審議いただいた後、了承が得られましたら、それを中間建議として教育委員会に報告するという手続になります。こういう一連の流れの中の今回の専門部会報告（案）でございます。

表現について細かく詰めるのは恐らく起草委員会で行うことになりますので、本日は専門部会として提案すべき必要な事項がきちんと盛りられているかどうかという点に限定して御意見をいただければと思います。

それでは、何かお気づきの点がございましたら、何でも結構ですのでお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【田中委員】 表現の細かい問題かもしれませんが、忘れないうちにとしまして、資料1の1枚目の左側の中ほどの2番目、教育行政の課題というタイトルの右側に「サブシステム」という言葉があります。サブシステムという言葉ですと、学校教育が上位システム、トータルシステムで、その下位としてのシステムのような捉え方がされる可能性があるのですが、「サブ」は要らないのではないかと思います。どうでしょうか。

前回欠席した上、きちんと見ていなくて、今言うのも申し訳ないのですが、今すぐでなくても、最終的にご検討いただくということでもかまいません。

【高橋委員】 サポートシステムではどうですか。

【田中委員】 サポートならいいのですけれども、下に「支援」という言葉があるので。

【主任社会教育主事】 調整させていただきます。

【葉養部会長】 他にいかがでしょうか。

【太田委員】 私も細かいことですが、一つは右側のページの＜取組の方向1＞に、「外部社会資源：企業や各種業界・団体、大学、NPOなどを指す」とあります。多分、「など」の中に含まれているのだと思うのですが、＜取組の方向3＞に団塊の世代などの教育支援人材について書かれています。そうすると、ここにも個人があったほうがいいような気がします。要するに、組織や団体だけを相手にするのか、地域の有用な人材がいらっしやればダイレクトにその方という意味からです。

次に、同じ＜取組の方向1＞の（1）の、一番下に例として「環境教育・学習プログラムの企画・協力という形で、企業が作成する『環境報告書』づくりへ協力する」と、非常に具体的に書いてあります。

例えば「企業のCSR(社会的責任)活動などへ協力する」などとしてみては、いかがでしょうか。何か環境報告書にこだわりがあるのかなという気がしました。今、環境報告書という形で出している企業もあるし、サステナビリティレポート(環境の社会報告書)のような形で出しているところもあるし、いろいろな形をとっています。ですから、環境報告書という具体名で書かないほうがいいのではないかと思います。

それから、もう一つは2枚目の右側のページです。これでもいいと思うのですが、都教委が緊急に対応すべき施策に関する提言の下の丸が二つある四角の囲みの中ですけれども、「都立学校は、地域にとっては“地域社会に貢献する都立学校”という側面を持っており」と書いてあります。

今後はますますその役割を重要にしていかなければいけないというのがここでのメッセージだと思うのですが、地域教育推進ネットワークあるいは地域教育プラットフォームはまさにある部分で都立学校を支える仕組みでもあるわけです。だから、都立学校は地域が支えると同時に、地域に貢献するという両方の側面をこの部分では書いておいたほうがいいのではないかと思います。

下に書かれていることのかなりの部分は、地域が支える内容ですが、一番下の（4）にある都立学校から地域教育プラットフォームへという逆の流れは大切だと思います。

【葉養部会長】 どうもありがとうございました。他にいかがでしょうか。

【高橋委員】 4の＜取組の方向1＞の（1）に「企業の経営活動のプロセスに参画する」とありますが、これは大層すぎる、経営活動のプロセスには参加できないだろうと思います。ここは、それこそサブシステムというか、CSR活動とか、社会貢献活動ということに限定したほうがいいように思います。

【太田委員】 経営というのは不相应ですね。

【葉養部会長】 どうもありがとうございました。他にいかがでしょうか。

【田中委員】 それと併せて、（1）は「企業」が出過ぎるような気がします。例えば外部社会資源には、個人を入れるかどうかは別にして、＜取組の方向1＞書かれているようにいろいろあるわけです。

については、外部資源独自の活動に対していろいろと関与しながら子どもたちの教育

に役立てるという意味だと思います。そうであれば、例えば「企業・NPO等」ぐらいがいいのではないかと思います。例としてはいいのかもしれませんが、
、
、
がある程度トータリティーを持った形のほうがいいと思います。どうでしょうか。

の例が企業であれば の例はNPOにするとか、外部資源としてトータルに最初に言っておきながら、「企業」がやや出過ぎている感じがします。

【太田委員】 の各種教育コンテンツは必ずしも企業でなくても、NPOでいろいろな活動をしているところがあります。だから、ここで企業と限定する必要はないような気がします。

【田中委員】 そうですね。

【葉養部会長】 他にいかがでしょうか。

【水谷委員】 2枚目の表は前回と多分変わっていないと思いますが、イメージとして重要ですので申し上げます。区市町村レベルに設置される「地域教育プラットフォーム」と区市町村教育委員会の位置関係が少し離れすぎているのではないのでしょうか。

区市町村教育委員会が区市町村レベルの「地域教育プラットフォーム」に重なっているくらいでないと十分に機能できないのではないかという意識があるものですから。それから、両者をつなぐ矢印の線も細いように思います。

【事務局】 太い線がこれまでになかった動きを表していて、細い線は既にあった動きを示しています。

【水谷委員】 当初地域教育プラットフォームは複数の中学校区をイメージしてということでしたが、この図に描かれている地域教育プラットフォームは区市町村全体を見ているものですから、なおさら区市町村教育委員会はより深くかかわってくるような形でないと、実効性がないのかなという気がしています。

【葉養部会長】 他にいかがでしょうか。最終的には文言の調整もごさいますので、私と事務局とで原案を修正させていただければと思っております。修正する際に非常に助かりますので、御指摘だけ是非お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

村上委員、何かございませんか。

【村上委員】 教育コーディネーターには関心が高いですし、良いものが入ってきたと思っております。特に文言等についてはございません。

【葉養部会長】 生重委員、いかがですか。

【生重委員】 私も文言は大丈夫だと思っています。

【太田委員】 図が込み入ってしまうのかもしれませんが、先ほど、細い線が既にある動きであるという説明がありました。そうすると、東京都教育委員会から都立学校に線が出ているのと同じように、区市町村教育委員会から小中学校に線が出ていなくてもいいのかと思いました。

【事務局】 もう一度考えてみます。

【太田委員】 これは都立学校の位置付けを明確化させるという図なので、都立学校に重点を置いて整理されたのですね。

【事務局】 基本的にはそうです。

【太田委員】 ただ、右側に「地域教育プラットフォーム(完成版)」と書かれているので、全部の関係図にしなければいけないような感じがしないでもないですね。

【事務局】 再考します。

【太田委員】 単純に都立学校との関係図式だけにしてしまうという方法もあります。

【事務局】 そうなると、今まで議論いただいてきたこととの関係からますます込み入ってしまうという感じがします。もう一度作図し直した上で、全体会に諮る前に、専門部会の委員の方々に御意見をいただくようにしたいと思います。いい作図があったらお教え願います。

【村上委員】 この図でいうと、一番下にある家庭教育、小中学校、学校外教育の枠を真ん中に寄せて、三つの囲みを小さくし、下にスペースを空け、小さく区市町村教育委員会という丸をこの枠の中に入れてしまっ、東京都教育委員会からこの囲みにも矢印が上下に行ったり来たりするようにしてはどうですか。

行政的な枠組みでいえば、区市町村の小中学校に東京都教育委員会は直接タッチしないので、外してあるのだらうと思います。区市町村教育委員会は地域における家庭教育、小中学校、学校外教育と関連があるわけですから同じ囲みに入れてしまっ、図ですべてを説明しようと考えずに図をシンプルにしたらどうでしょうか。

【事務局】 少しお時間をください。どういう説明がいいか、もう一度事務局で検討させていただきます。

いずれにしても、太田委員に御指摘いただいたように、要するに第5期東京都生涯学習審議会で提案した地域教育プラットフォーム構想に都立学校をどう組み入れていくかというところに焦点化したものだということを、理解していただけるような形の工夫をしたいということです。

【葉養部会長】 他にお気付きの点がございませうか。5の都教委が緊急に対応すべき施策に関する提言が今回の建議の中核です。中核であるだけに、予算要求との絡みなどいろいろ考えなければいけないこともあって、細部はある程度流動的な形にしておき、起草委員会で最終的に詰めていくことにさせていただければと思います。

今いただいた御意見は詰めさせていただきますが、まだ流動的な要素を含めて、起草委員会で最終的に詰めていきたいと考えております。いかがでしょうか。よろしゅうございませうか。

では、ある程度詰まった段階で専門部会の皆さんにお配りするというごうございませうので、間に合う限り修正させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

【主任社会教育主事】 更に御意見がありましたら是非お寄せください。また、全体会に報告する前に一度お送りいたしますので御確認ください。

【葉養部会長】 どうもありがとうございます。これで、専門部会報告(案)についての審議は終わらせていただきます。

それでは、専門部会の最終回となりますので、お一人ずつ御感想でも御意見でも、あるいは言い残したことがあるということでも結構ですけれども、お話しただいて会議を閉じたいと思ひます。いかがでしょうか。

【生重委員】 私はとても充実した専門部会だったのではないかと感じております。画期的だと思ひているのは、我々コーディネーターも一緒に学校の先生たちとコーディネーターの活用について、共に学ぶことを検討したことです。

これまで、先生から呼ばれたり私が学校に伺ったりしながら個別に取り組んできたことが、もう少し大きな単位でできるようになるというのは、とても画期的なことではないかと感じております。

今、企業や団体が持っているものが、それを望むところときちんと出会えるような、充実したネットワーク組織を、早く体制として作っていけるようになるとうよいのではないかと感じております。以上です。

【太田委員】 特にないのですけれども、学校教育に対して社会教育、生涯教育という立場から提案していくということ、東京都生涯学習審議会の役割はとても大きいと思ひます。

学校は自らは、「かなり開かれた学校を目指している」と言ひますが、それは十分でない部分もあります。校長がそういう思いに立っけていても、積極的な教員ばかりではないよう

です。そういう面からいうと、こういう活動はまだ緒に就いたばかりだという気がしております。

東京都の動きが一つのきっかけになって、全国にそういう動きがどんどん広がっていけばいいなという気がしています。

【田中委員】 何も言うことはないという感じです。前期に比べて、実現に向けてかなり着実に進めてきておられるので、大変いいプロセスで来ていると思います。

私もある市で公民館に関して、伝統文化のフォーラムを3年継続で行っています。そのたびに、「東京都が地域教育プラットフォームを進めていて、区市町村にモデル事業を呼びかけているようなので、伝統文化版のプラットフォームを作ったらユニークでいいのではないか」と言っているのですが、なかなか進まないようです。

これからは学校区などの小さいエリアで、テーマ別にこういうものが生まれてくることもいいのではないかと思います。この地域は環境で、伝統文化で、福祉でと、専門分野に特化した地域教育プラットフォーム的なものが重層的にできていくこともあり得る気がします。以上です。

【高橋委員】 本当にこの地域教育プラットフォームの役割は大きいと思いました。

私は15年前までは二つの私立学校に勤務しておりましたが、それから学校は随分開かれてきたと思っていたのですが、あまり開かれていないという現実を知りました。ですから、社会資源の活用はより重要だと考えています。

私は企業の社会貢献、CSR活動の支援に取り組んでおります。CSR活動の中で、具体的な社会貢献で学校教育あるいは子どもたちをどうサポートしていくべきかというのは非常に関心も高く、ニーズがあると思います。学校と企業をつなげていくために私どもも是非役割を果たしていきたいと思っております。

皆さんがこんなに元気に地域で頑張っていることを知って、非常に勇気付けられました。ありがとうございました。

【水谷委員】 ここまでまとめ上げるのは非常に大変だったとお察しいたします。

地域教育プラットフォームとは何かを説明するときに、「外部教育資源を生かすワンストップショッピングみたいなもの」と言うイメージを持っていたのですが、やはり今後は普段教育に関連していない外部の教育資源、具体的に言うと企業などに、いかにわかりやすくイメージしていただくかということを考えて、さらにまとめていかなければいけないと思います。

【村上委員】 大変勉強させていただきました。

もうここまで枠組みとしてまとめられましたので、一つの具体的な形になるのだろうと、私はもうこの段階で安心しています。

私がとても関心を持っているのは、外部資源を活用した地域教育プラットフォームができることによって、いかに子どもたちの教育に、特に学校や地域の様々な課題に対して、具体的な効果を上げているという結果をきちんと測定し、社会に示していくことです。

それによってあまり積極的でなかった先生も、効果があることが示されれば動くと思います。動機付けの一番いい方法はそこだと思っております。私自身もそこに関心を向けて、力を注いでいきたいと思っております。

私が、アメリカにサービスマーケティングという教育手法を学びに2年間ほど行ってきたときに、非常に刺激になったのは、一人ひとりの子どもたちに成果を上げていることを客観視するための評価が非常に多元的に、多様に行われていたことです。数字も出てきていることを目の当たりにしました。資料もたくさん持って帰ってきておりますし、そういう研究者とのネットワークもありますので、それらを生かして皆さんに協力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【葉養部会長】 どうもありがとうございました。

それでは、本日は閉じさせていただきます。次回の連絡事項につきまして、事務局からお願いします。

【主任社会教育主事】 専門部会の皆様、ありがとうございました。回数も予定より増え、とても熱心に御審議いただいて、いよいよ全体会を迎えることとなります。

全体会は6月5日(月)の午後6時から、都庁の会議室で行います。

専門部会は本日で終了となりますので、部長から一言挨拶いたします。

【生涯学習スポーツ部長】 今、委員の先生方から一言ずつまとめをしていただきましたけれども、とてもいいものがまとまったと思っております。

お話にもありましたけれども、我々が検討しているものをどう端的に人に説明できるかが課題かと思えます。これは取組の認知度とは一面で相通じるところがあると思えます。

今後、全体会でさらに議論いただくわけですが、事務局としても、また力を入れていきたいと思えます。本当にどうもありがとうございました。

【葉養部会長】 それでは、長い間ありがとうございました。また、全体会の前に案をお送りすることになるかと思えますので、そのときはお気付きの点を是非お寄せいただけ

ればと思います。ありがとうございました。

午後7時15分閉会